

専攻科漁業生産科2年生、授業の様子(操船シミュレーター)

専攻科漁業生産科2年生が、操船シミュレーターを使用して航海の授業を行いました。

専攻科1年の時に、実習船「湘南丸」で沿岸航海を経験しており、その時に航行した^{くろしま}来島海峡航路の航行方法を操船シミュレーターや海図を使用しながら学んでいる様子です。

専攻科漁業生産科2年生は、12月に専攻科では最後となる沿岸航海を控えており、その時は湘南丸航海士の指導のもと、生徒が航海士役となり、日本各地の航路を実際に航行します。

学校での座学の間、操船シミュレーターで実践に近い感覚を養います。

操船シミュレーターを使用して授業中の専攻科漁業生産科2年生



☆専攻科とは

船舶運航科(S科)において航海や機関に関する基礎(高校2年生のときに航海系、機関系のどちらに分かれます)を3年間学んだあとに、更に2年間専門科目について学ぶ科です。ほとんどの生徒が専攻科修了後、船員として海運・水産業界に就職しています。

航海系列の専攻科を漁業生産科、機関系列の専攻科を水産工学科、情報通信系列の専攻科を情報通信科といいます。漁業生産科1年、水産工学科1年は実習船「湘南丸」に乗船して、約1年間にわたり遠洋航海や沿岸航海、ドック実習などの実習を行い、船員になる基礎を実習で学びます。

専攻科2年生は、学校において座学中心となり、漁業生産科の生徒は航海士、水産工学科の生徒は機関士になるために必要な3級海技士という免許の取得を目指して日々勉強に励みます。近年は2級海技士筆記合格、1級海技士筆記合格、または科目合格をしている生徒もいます。専攻科2年生では、瀬戸内海や^{しおのみさき}潮岬、^{みこもしま}神子元島など日本沿岸において重要な航路を航行する沿岸航海が1回あります。